

第18回

師走講演会



検証! 新型コロナウイルス感染症 COVID19診療の現場から。 そしてHIV診療の今はどうなっている? 札幌、東京と繋いで、釧路で情報共有しよう。

新型コロナウイルス感染症

COVID19が世界を席卷してから、もうすぐ2年になります。世界各国で様々な行動変容があり、加えてワクチン、治療薬の出現がウイルス対策の光明を見いだしたかと思えば、さまざまな変異ウイルスの出現に一步、二歩と後退を強いられている現状があります。

世間が感染者の数に一喜一憂しているなかで、医療現場は黙々と与えられた責務をこなして来ました。人命を救うただそれだけに腐心し頑張ってきました。その医療現場の生の声に耳を傾け、逼迫している医療の現状と問題点を共有することがいま大切なのではないかと思います。

そしてそんな中で、HIV診療を必死に守っている医療者もいます。コロナとHIV。

私たちは、もう一度この二つのキーワードで皆さんと語りたいと思っています。

ハイブリッド形式で開催します!(ウェブソフト)ZOOM利用。

池田先生と渡部さんは札幌からリモート講演。今村先生は、前撮りした対談形式のビデオを会場で発信。キーステーションとなる釧路ろうさい病院講堂の会場に、直接ご参加いただけますが、昨年同様リモートでも聴講可能となります。

ウェブ参加のかたは、以下のURLあるいはQRコードからご登録ください。直接会場に来られるかたは登録の必要はありません。

事前登録URL

<https://bit.ly/ILFARKushiro1212>

尚、お申し込みは開催前日12/11(土)20:00までをお願いします



2021年 **12月12日(日)** 16:00~18:00
【開場15:30】

釧路ろうさい病院

管理棟3階 講堂 入場無料

(感染対策を十分講じて場所を提供します)

講演Ⅰ. 札幌のCOVID19診療とHIV

札幌からリモート

池田 博 札幌医科大学血液内科助教

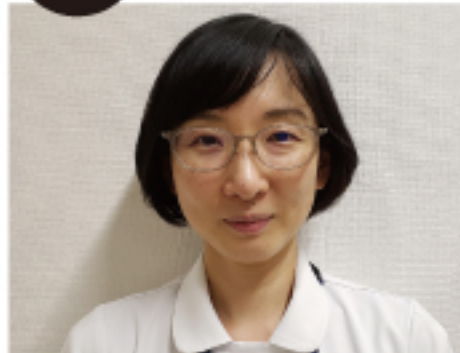


札幌出身。2000年札幌医大卒。2006年ハーバード大学附属ダナファーバーがん研究所 研究留学。2016年札幌医科大学血液内科助教。2011年カリフォルニア大学サンフランシスコ校エイズ・プログラムへ行ってからHIV診療にかかわる。現在は、札幌医科大学血液内科でHIV診療をしながら血液学全般の臨床・教育・研究に携わっている。

講演Ⅱ. コロナ禍でのHIV陽性者の変化

札幌からリモート

渡部 恵子 北海道大学病院HIV診療支援センター 医科外来ナースセンター副看護師長



1997年看護師免許取得後、天使病院勤務。2002年から北海道大学病院勤務となり、2003年HIV相談室勤務。現在HIV診療支援センター・医科外来ナースセンター副看護師長。日本エイズ学会認定HIV感染症指導看護師として、道内のHIV看護の中心的役割を担う。

講演Ⅲ. 東京ど真ん中奮戦記 (都立駒込病院でのコロナとHIV)

ビデオメッセージ

駒込病院には、東京都のエイズ中核拠点病院として約1500人のHIV陽性者が通院し、さらに現在は感染症指定医療機関としてのべ約2000人以上の新型コロナウイルス感染症が入院している。

今村 顕史 都立駒込病院 感染症センター長



石川県出身。1992年浜松医大卒、1997年より都立駒込病院勤務。2014年がん・感染症センター感染症科部長。2017年感染症センター長。駒込病院で日々診療を続けながら、院内だけでなく、東京都や国の感染症対策などにも従事している。日本エイズ学会理事などの様々な要職を務め、感染症に関する社会的な啓発活動も積極的に行っている。

主催/イルファーク釧路
共催/釧路労災病院
後援/釧路市医師会

問い合わせ先 イルファーク釧路事務局 (あんずの種)

0154-39-2589



イルファーク釧路は、地域の性感染症・HIVエイズの予防啓発とケニアでのHIV医療支援を行っています。